

審議会等の会議結果報告

1. 会 議 名	第 6 回 松阪市教育ビジョン検討委員会
2. 開 催 日 時	令和 7 年 9 月 30 日(火)午後 1 時 30 分～午後 4 時 25 分
3. 開 催 場 所	松阪市教育委員会事務局 2 階 教育委員会室
4. 出席者氏名	(委 員)◎谷口委員、○奥村委員、西村委員、松岡委員、鈴木(寛)委員、福田委員、鈴木(久)委員、服部委員、光山委員、西尾委員(◎委員長 ○副委員長) (事務局)若山事務局長、熊野事務局次長、西浦参事兼教育総務課長、北畠学校活性化推進室長、三田学校教育課長、協葉参事兼学校支援課長、中西子ども支援研究センター所長、小泉生涯学習課長、吉田スポーツ課長、瀬古参事兼給食管理課長、松葉参事兼文化課長、加藤こども未来課長
5. 公開及び非公開	公 開
6. 傍 聴 者 数	0 人
7. 担 当	松阪市教育委員会事務局 教育総務課 電 話 0598-53-4381 FAX 0598-25-0133 e-mail syom.div@city.matsusaka.mie.jp

協議事項

教育施策シートについて(外国人児童生徒教育の推進、小中学校の再編活性化、生涯学習の推進、青少年健全育成の充実、生涯スポーツの充実、スポーツ環境の整備、文化芸術の振興、文化財の保護 計8施策)

各教育施策に関わる評価指標について

全体を通して

議事録

別紙

【第 4 回 松阪市教育ビジョン検討委員会 会議メモ】

1. 日 時 9月30日(火)午後1時30分～午後4時25分

2. 場 所 松阪市教育委員会事務局 2階 教育委員会室

3. 出席者

委員：谷口委員、奥村委員、西村委員、松岡委員、鈴木(寛)委員、福田委員、鈴木(久)委員、服部委員、光山委員、西尾委員

事務局：若山事務局長、熊野事務局次長、西浦参事兼教育総務課長、北畠学校活性化推進室長、三田学校教育課長、脇葉参事兼学校支援課長、中西子ども支援研究センター所長、小泉生涯学習課長、吉田スポーツ課長、瀬古参事兼給食管理課長、松葉参事兼文化課長、加藤こども未来課長

4.内 容

1.あいさつ

2.協議事項

(1) 教育施策シートについて(外国人児童生徒教育の推進、小中学校の再編活性化、生涯学習の推進、青少年健全育成の充実、生涯スポーツの充実、スポーツ環境の整備、文化芸術の振興、文化財の保護 計8施策)

(2) 各教育施策に関わる評価指標について

(3) 全体を通して

(4) あいさつ(各委員から)

3. その他

(1) 今後のスケジュールについて

(2) あいさつ(教育長)

内容は以下のとおり

開会 司会

1 あいさつ

2 協議事項

(1) 教育施策シートについて

(事務局から説明)

～6 外国人児童生徒教育の推進について～

委員

現状と課題の3段落目では「外国人の子どもたち」という表記があり、今後の方向性では「外国につながる全ての子どもたち」という表記があります。表現の仕方が違うのには何か理由はありますか。

事務局

「外国につながる全ての子どもたち」の方が適当であると思いますので、表現をそろえさせていただきます。

委員

評価指標の内容が、事前に送っていただいたものと大きく変わっているのは何か理由がありますか。

事務局

活動指標において、こういうふうな活動をした結果こういう成果が出ましたと指標に連続性を持たせる必要があると考えを改めた結果です。前回ビジョンでは外国人児童生徒教育に関わる指導力の向上に目を向けていましたが、今回は多文化共生教育の推進に注力したいと考えています。

現状、多文化共生の視点に立った人権学習に取り組む小中学校の割合は 3 年連続で 100%を達成しておりますので、さらに踏み込んで、講師を交えた実践的な取り組みを増やしていきたいと考えました。

そこで多文化共生の視点に立った人権学習への講師派遣回数を現状の 20 回から目標の 30 回へというふうに変えた方が、全体を説明できるのかなと思い、このように変更いたしました。

～23 小中学校の再編活性化について～

委員

現状を否定するわけではなく、こんな学校で学べたら素敵だなと思える部分が盛り込めてこそ教育ビジョンに載せる意味があると思います。今後の方向性の下から 2 行目に、「このようなことから、学校の小規模化に伴う複式学級の発生等の課題を最小化する」と書いてありますが、複式学級の発生等だけをなくすることが目的ではないと思います。

一定の集団で非認知能力を高めるところにも、再編活性化の意味があり、もう少し盛り込んだ、わかりやすい内容にしていただけると、みんながめざす教育ビジョンとなり、ありがたいなと思います。

取組内容の 3 つ目に「再編活性化に伴い使われなくなる学校施設及び跡地の活用については、地域住民の意向やニーズに基づき」と記載がありますが、学校の場所が変わっただけで子どもたちの故郷であることに変わりはありません。「地域住民」だけを取り上げるのではなく、子どもたちをはじめ、保護者や家庭・学校みんなが関わっていけるよう表現を変えていただけるといいなと思います。

委員

私も委員の意見に賛成で、先ほど言っていたように、確かに施設整備、ハード面もありますが、その先には、子どもたちの充実した学びと育ちを支える教育環境の整備、

ソフト面もあると思います。

6 ページの再編活性化の部分では、こういう教育をしたい、こんな教育が望ましいという記載がある一方で、55、56 ページでは、子どもの人数が減ってこんな現状と課題があるから、これから学校の再編活性化に取り組むとあります。わからなくはないですが、少人数だと多様な人々の意見を聞くといったような豊かな学びの環境が損なわれる可能性があるから、子どもたちにとって再編活性化が必要だということをしっかり伝えるべきだと考えます。

「松阪市立小中学校の適正規模及び適正配置に関する基本方針」の中にもしっかり書いてもらってありますので、二次元コードから入って基本方針を確認していただければよいというスタンスも理解できますが、現状と課題、今後の方向性、取組内容のところにもう少し基本方針の内容、ソフト面の内容を盛り込んだ方が伝わりやすいと思います。

22 学校施設の充実についても言えるのですが、学校を利用する人の幸せに繋がる成長にも繋がる、そして教育大綱のウェルビーイングに繋がるような記載があると、もっと教育ビジョンが広く市民の方にわかってもらいやすいと思います。子どもたちにとって望ましい教育環境、こういう教育をめざしたいというのがあるといいなと思います。

事務局

委員お二人がおっしゃられたことは、今後の方向性の 2 段落目の「松阪市がめざす学校教育と子どもたちが未来を切り拓く力を育むための望ましい教育環境の実現」という部分で網羅されている認識です。二次元コードを読み取っていただくと、基本方針が出てきます。その中に委員のおっしゃられたような内容が掲載されていますので、教育ビジョンとしては、記述的なボリュームも検討した上で、掲載内容をこの程度に留めたということでございます。とは言いますものの、委員お二人からのご意見を踏まえ、現状と課題の 3 段落目、今後の方向性の 2 段落目、取組内容の 1 段落目の記述を少し膨らませる方向で検討してみます。

なお、取組内容 3 つ目の跡地活用の記述中にある「地域住民」という言葉には、委員がおっしゃるとおり、子どもたちも含まれているとの認識でございますので、そのようにご理解いただければと思います。

委員

再編活性化に当事者として関わる者としては、子どもたちにとっても保護者にとっても地域の皆さんにとっても、希望のあるものであるということが伝わりやすい記述にすべきだと思いますので、事務局にはボリュームを変えずに一工夫していただきたいです。

あと、担当課の表記が「教育総務課、学校活性化推進室」と記載されていますが、教育総務課と学校活性化推進室というのは同列なのでしょうか。前々回の平成 29 年の教育ビジョンでは、子ども支援研究センターが学校支援課の下部組織ということで、担当課は学校支援課という表記でした。あえて学校活性化推進室の名前を出されるのは、何か

意図があるのでしょうか。

事務局

学校活性化推進室というのは教育総務課の中にある室ですので、所属としては教育総務課となります。ただ、松阪市は学校活性化推進室という組織を立ち上げ、学校の再編活性化という課題に取り組んでいるということを、対外的に形として示す必要があるとの考えから、学校活性化推進室の名前をあえて出しています。

以上のようなことから、「教育総務課、学校活性化推進室」ではなく「教育総務課 学校活性化推進室」が正しい表記となりますので、修正させていただきます。

～24 生涯学習の推進について～

委員

24 から 30 を通して伺いたいです。教育大綱ではウェルビーイングや持続可能な社会の創り手、自己肯定感というのがキーワードとして盛り込まれたと思います。学校教育という 1 つの柱に、生涯教育というもう 1 つの大きな柱が改めて焦点化・明文化されたと思います。24 から 30 は学校教育ではなく生涯教育で、いろんな年代の人が学び続けて豊かな生活をとという視点での教育ビジョンになってくると思います。前回の教育ビジョンから意識して、新しく変えた部分はどこなのか教えていただきたいです。

事務局

特に公民館に関しては、令和 8 年 4 月から地区公民館のコミュニティセンター化により、社会教育法から外れていく施設となります。生涯学習の推進は、コミュニティセンターでもしっかりうたわれている部分があります。例えば取組内容の 4 つ目の「公民館や地区コミュニティセンターは、公民館が実施する講座やプログラム等を通じて子どもたちが地域の文化や社会資源に触れる機会を提供し」というように、コミュニティセンターの部分を意識しながら、生涯学習活動を推進していくという部分を入れさせていただいています。

また前回委員の意見を踏まえ、今後の方向性のところに「幅広い年代層に利用してもらえる公民館をめざす」という内容を記載にし、公民館・学校・地域の連携を入れさせていただきました。

委員

評価指標の活動のところで、前回の令和 4 年の教育ビジョンでは公民館における講座数であったのが、今回は公民館及び地区コミュニティセンターにおける講座数になり、講座数が増えたなと思いました。

委員

評価指標のところで活動については公民館及び地区コミュニティセンターと記載があ

りますが、成果では公民館だけでアンケートを取るような記載があるのはなぜですか。

事務局

地区コミュニティセンターは地域づくり連携課という市長部局が管轄しています。教育委員会事務局の生涯学習課でアンケートをするとすると、公民館でアンケートを行うことになります。

～26 青少年健全育成の充実について～

事務局

前回の教育ビジョンから意識して変えたこととしては、取組内容の2つ目の「保護者会運営者の負担軽減を図るため運営体制の転換を図る」という部分です。保護者の負担軽減を図るというのは以前から言われていました。委託という方式もありましたが、指定管理者制度の導入に向けて、様々な調整をさせていただいていることを、運営体制の転換を図るというように表現しています。

委員長

さんまくらぶも見学させていただきましたが、これは松阪市独自のものですか。

事務局

桑名市では夏休みに子どもたちを1ヶ所の大きな施設に集め預かっており、参考にさせていただきました。全国で言うと数は少なく、先進的に取り組めた事業となっております。

委員

夏休みに半日単位で9回、生涯学習課の方も同席されている勾玉づくりといった講座に参加させていただきました。数多くあるうちの半日、9回だけでも大変でした。さんまくらぶ以外の学童も各地区で行っていると思いますし、夏休みはものすごい動きがあると思います。

そのような中、評価指標のところで講演会を増やすと書いてありますが、職員に負担がかかる部分が多いと思います。それよりも満足度を増やしていく等の活動に変えるほうがいいのではないのでしょうか。

事務局

青少年健全育成部会ですが、生涯学習課が事務局をしておりますが、各支部がございます。本庁館内、飯南、飯高、三雲のそれぞれの支部で様々な企画をいただいていますので、評価指標の講演会の数といたしましては職員の数を踏まえると妥当な目標設定になっていると考えます。

～27 生涯スポーツの充実について～

委員

評価指標の所で、わかりやすく 11 キャリア教育の推進で言うと、「職場体験や職場見学を行っている学校の割合」を増やすという活動によって、『「将来の夢や目標を持っている」と回答した児童生徒の割合』が上がるという成果になるという連続性があります。

評価指標の活動で「市長杯スポーツ大会の参加者数」が現状 3,700 人から目標 4,000 人になるというのは成果の方かなと思います。市民がスポーツ大会に参加しやすくするために啓発活動を行っていくとかいうのであればわかりますが。成果のところに目をやると、「20 歳以上の市民が週 1 回以上のスポーツを行う割合とあって、活動に対する成果の連動性があるのか疑問に思います。

事務局

評価指標の成果の「20 歳以上の市民が週 1 回以上のスポーツを行う割合」を活動指標とすることは、市の事業だけでは指標としては正確に評価するには広範囲であり難しいです。この評価指標を達成するためには、国や県・事業者など様々なところがスポーツを行った結果、複合的にこの成果が上がってくると思います。その点では少し協議していく必要があるのかなと思います。

委員

市長杯スポーツというのは何競技あるのですか。

事務局

25 種目ございます。その中にはボッチャという障がい者の方も含んだすべての方が気軽に参加できるスポーツがあります。ボッチャを含むニュースポーツは競技性のスポーツではなく、みんなが参加して楽しむスポーツです。このように市長杯には、競技性を重視したスポーツと、スポーツ活動を行う人数を増やしていくスポーツがあります。

委員

評価指標の活動を「市長杯のスポーツ種目数」にしたら成果の「20 歳以上の市民が週 1 回以上のスポーツを行う割合」に連動性があり良いと思います。

～28 スポーツ環境の整備について～

委員

評価指標の意図について教えていただきたいです。

事務局

成果が多岐に渡ってしまっていて、ハード面もソフト面も含めて、最終的には施設を利用し

ている市民の人数が少ないので、成果の「公共スポーツ施設を利用している市民の割合」を増やしたいという意図があります。その中でも活動においてはマラソンを一番推していますので、マラソンの参加人数とさせていただきました。

本当は活動をいくつか入れて成果にもっていくという風にしたいのですが、活動と成果の距離感が少しあると考えております。ハードを変えていく活動の指標を設定し難く、何年までに何施設改修していくといったことを書きにくい部分があります。マラソンの成果としては交流人口の拡大やシビックプライドの醸成など、スポーツの域を超えてくる部分があるほか、市民の健康増進というものもありこの点を踏まえての成果指標の設定も検討できると思います。

事務局

施設の整備が何件というのであればわかりやすく、大きな工事であれば計画的にできますが、施設の修繕、壊れたら直すというのはその時の状況次第であり、活動指標として取り入れにくい部分がございます。マラソンを入れたのは、みえ松阪マラソンは松阪市の中心や総合運動公園や鈴の森公園といった、かなりの施設を使ったコース設定をしているからです。マラソンだけで言うとはよくないのですが、各施設において壊れているところがあれば直すという施設を良くしていくことを、毎年の見直しを重ねることで行っています。そういったことからマラソンを行うことで、施設の改善に繋がっていくということで、施設の改善によって悪いところを直し、施設利用者を増やしていきたいという意図があります。

委員

取組内容の 7 つ目の「市民・地域・企業と協働しながら」とあるように活動指標に連携する団体について書くのもありかなと思いました。スポーツ施設のネーミングライツではないですが、市民のためにお金出して、持続可能な施設にしてくれる企業もあるとすると、そういった方向の活動指標でもいいのかなあと思いました。フルマラソンへの思いを聞くと難しいなとも感じました。

委員

フルマラソンに対する思いがあるにもかかわらず、この評価指標では市民の方が読んでもその思いや活動から成果においての連動性が伝わらないというのが、言い方が良くないかもですがもったいないです。

委員

27 生涯スポーツの充実の評価指標において活動の「市長杯スポーツ大会の参加者数」をこのままにして、市長杯スポーツ大会は幅広い年代の市民が参加でき、大会の充実を図るなどを入れ、先程の松阪マラソンの補足説明を取組内容に書くとわかりやすく繋がるなと思いました。

委員長

みえ松阪マラソンの意義をもっと取組内容で書いたらいいなという意見ですね。この評価指標が1個しか書けないところが難しい部分ですね。

委員

数を増やすだけの評価指標ではもったいないと思います。

～29 文化芸術の振興について～

事務局

文化芸術の振興ということで生涯学習にも直接繋がってくると考えています。教育大綱に結びつけて言いますと、記載内容は自己実現・自己肯定感、ウェルビーイングに繋がっていると思っています。前期の教育ビジョンから特段に記載内容を変えたという部分はありませんが、もとよりその部分が反映されている内容であるのご理解いただきたいと思います。

評価指標のうち、活動指標については、松阪市美術展覧会という市内唯一の公募展に着目しています。世代を問わず、創作や鑑賞の場を提供しているということで、市民の文化芸術に対する興味や関心を喚起するという意味を込めて、指標として設定しています。前期の教育ビジョンでは松阪市美術展覧会への「入場者数」を活動指標に設定していたのですが、次期はさらに踏み込んで、市民の皆さんにより積極的に文化芸術に関わっていただく指標として「出品者数」を設定しました。

成果指標につきましては、文化芸術に対する興味・関心が高まり、市民の活動が活性化された結果、文化センターの利用率が上がっていくという形で設定しました。

委員

評価指標の活動指標を出品者数に変えて、現状値が234人とのことですが、これはこれまでは増加傾向ですか、減少傾向ですか。

事務局

減少傾向にあります。コロナ禍で著しく減少し、それを復活させるのはなかなか難しいのですが、コロナ前の出品者数まで戻すよう設定しました。今年は市制20周年ということもありまして、ホールの利用者数は増えているのですが、文化芸術活動に直接関わる人が増えていけばいいなという思いがあります。

～30 文化財の保護について～

事務局

教育大綱に沿った部分を説明させていただきますと、持続可能な社会の創り手ということで、保存団体や所有者の方々と連携し文化財を将来にわたって継承していくこと、

そして将来の担い手を育成していく部分を、前期の教育ビジョンに比べ強調しました。

評価指標のうち、活動指標につきましては、「文化財施設における子どもを主対象とした展示や講座等の開催回数」ということで、文化財の保護や継承の担い手となる子どもたちに、地域の文化財を学ぶ機会や場を提供する回数を増やしていきます。現状値の 25 回に対して、目標値として 30 回に増やしていきたいというものです。

そして成果指標としては、土・日曜など学校の休日にそのような開催講座がありますので、その活動の結果、「過去一年間に学校以外で文化財施設に一つ以上行ったことのある児童生徒の割合」が少しでも上がればいいなど、子どもたちの文化財に対する理解と興味・関心が高まったことを表す指標として設定しました。

次に、小学生の現状値 81%に対して目標値が 75%に下がっている理由について説明します。これまで小学生の割合は徐々に増え、60%台になってきたのですが、令和 6 年度だけ 81%と突出して高い結果になりました。これで数字上は当初目標を達成したということになるのですが、しかし今後も慎重に推移を確認したいということで、当初目標のとおり 75%と設定しました。中学校につきましては、2 年連続で 60%前後という結果でしたので 65%を目標に設定しました。文化財が子どもたちの日常生活の中で意識され、将来のシビックプライドに繋がるようめざしています。

委員長

成果の現状値が小学生で 81%になったというのは何か理由があったのではないのでしょうか。

事務局

このアンケートが全校実施アンケートではなく、抽出アンケートであることから、数値を慎重に見ていかなければいけません。

委員

船形埴輪が国宝に指定され、話題になったことにより、文化財センター(はにわ館)の入場者数が随分増えたのも要因の一つかと考えられます。

委員

郷土教育の方で人・もの・ことを大事にするような発言がありました。文化財において人については人材育成で学校支援課が、ものについては文化財や城跡、ことについては祭りや行事という出来事で文化課関係なのだと思います。様々な部署が一体となっていく必要があり、所有者との連携の話もされていましたが、達成をめざす SDGs として「17 パートナリーシップで目標を達成しよう」も入れたらどうでしょうか。

事務局

持続可能な社会の創り手の部分にも大いに関わる部分だと思うので、「17 パートナ

シップで目標を達成しよう」も入れさせていただきます。

委員

先ほどの話を聞くと、文化財の保護のキーワードの連携で言うと学校教育との連携で郷土教育、文化財の保護で言うと地域の所有者との連携が大事になってきます。あえて子どもを評価指標の対象にしているのは、持続可能な社会の創り手として子どもが文化財に興味関心を抱いて大人になったときのことを考えてということであっていますか。

事務局

その通りです。

(2)各教育施策に関わる評価指標について (事務局から説明)

委員

新しくなった松阪市総合計画と、教育大綱と、教育ビジョンにつきましては整合性が取れていますか。

事務局

松阪市総合計画と教育大綱と、教育ビジョンは整合性が取れています。各課その部分を大事にしています。

委員

評価指標の活動と成果において、誰が達成する指標なのかが全体を通してわかりにくいです。

委員

わかりやすく書ければいいのですが、どうしても書ききれない部分もあると思います。大事なことは書けないこともあります、聞かれたときに説明できるようにしなければいけないことです。

事務局

総合計画があって、実施計画があって、事業ごとにそれぞれ活動目標はきちんと設定されています。事業単位で PDCA サイクルを回しています。そのため、この事業の集合体がそれぞれの取り組み分野になってくるのですが、その事業の集合体全部を羅列するとものすごい数になってしまいます。たくさんの事業にぶら下がり、指標がありものすごい数になるので、各課がそれぞれ一番注目されている若しくは代表となる指標をあげております。

中身の文言を変えてしまうと、整合性がとれなくなってくることもあり、いかにわかりやすく表現するかが大事になってきます。

委員

活動と成果の指標のストーリーが繋がっているのかは、読み手に委ねられているように思います。9郷土教育の推進はわかりやすいです。活動指標の『教育内容と教育活動に必要な地域の「人」「もの」「こと」を効果的に組み合わせた指導計画を作成している学校の割合』が増えると、成果として「地域や社会をよくするために何かしてみたいと考える子どもたちの割合」が増えるというふうに直接的でわかりやすいです。一方、8番の道徳教育の推進は「あいさつ運動や清掃活動等」が増えると、成果指標の「道徳の授業で自分の考えを深めたり、グループで話し合ったりする活動に取り組んでいると感じる児童生徒の割合が増える」に繋がるのかなと思います。また、13番「不登校の児童生徒が教職員以外の支援や指導を受けている割合」が増えると、成果として「Q-Uの学級満足度」が増える、これも直接繋がっていくなと思います。他の方が読まれるとどうかなとも思います。

少しわかりにくいのが16番「体力テストを全種目実施した学年の割合」が高いと「総合評価はAからC」が高くなるというのは、みんなが体力テストに取り組んで、学校全体が体力改善に繋がるみたいな感じで読解力が必要です。17番もよく読んだらわかります。

18番食育の推進のところで、「コンクールに取り組む」ことをしたら「朝ご飯を毎日食べる」というのは、食に興味を持って朝ご飯大事だと気づくということだと思いますが、他の指標がないかなとも思います。22番「防災機能強化実施箇所」が増えると、「目標値に対する割合」が増えるというのはどういうことなのか。23番も気になります。

事務局

委員の皆様の話を聞いて、各課気づくことができたと思います。活動指標というのは我々が取り組むべきこと。それに伴って成果指標ができていく、活動を通じて成果をあげるということに、各課長が気づくことができたと思います。

私も22番で、危険な箇所を対応していきますという活動を通して、事故発生率をなくしていく等の成果をあげるべきではないかというのを考えました。

各課検討して修正すべき点は修正させていただきます。

(3)全体を通して

委員

4ページの特別教育のところの2列目に「持てる力」と漢字で書いてありますが、他のところは全部ひらがなで「もつ力」「もてる力」と書いてあります。ここもひらがなで統一すべきだと思います。

27ページ郷土教育の推進のところで、前回も申し上げたのですが、今後の方向性の2段落目で「コミュニティ・スクールや地域学校協働活動を一体的に展開する」というのは、

「コミュニティ・スクールと地域学校協働活動を一体的に展開する」の間違いではないかと指摘させていただいたところが、まだ直ってなかったようです。

続きまして 32 ページの取組内容 4 つ目のところで、「自分の将来の未来の希望について仲間」ってところがここは漢字で書いてありますが、30 ページの取組内容の 3 つ目のところは、ひらがなが「なかまづくり」と表記してあるので、統一した方がいいと思います。

60 ページ今後の方向性の 4 段落目「アウトリーチ型サービス」の*4 の注釈がどこにも書いていないです。

委員

さきほどの*4 の話ですが、*3 の説明が「アウトリーチ型サービス」のことなので、*3 にするのが正しいようです。*4 はそもそもないです。

委員

20 ページ取組内容の 5 つ目「プログラミング的思考を育むプログラミング教育」と書いてあってプログラミング的思考というのがわかりにくいというのを前回お伝えさせていただきました。別途でもいいのですが、どこかに注釈が欲しいです。

17 ページ現状と課題の 1 段落目に「国際対応能力(グローバル・コンピテンシー)」という記載があります。18 ページ取組内容 5 つ目にも「グローバルコンピテンシー」という記載があるのですが、グローバルコンピテンシーよりも国際対応能力のほうがわかりやすいと思います。表現を統一できるのであれば、統一していただくのが一番いいと思います。

53,54 ページ学校施設の充実のところ、先ほど再編活性化のところの協議事項のところであったので同じことを触れさせていただきました。学校施設を充実させていくということは、ハード面的な話だけではなくて、「どんな学校施設で子どもが育んでいったら、豊かな教育が受けられるか」という思いが込められての学校施設の充実だと思います。その視点がもう少し深く書いてあるとより内容が充実していいなという意味です。

委員

基本方針が 3 ページから 7 ページにかけて書かれてあり、それぞれの施策シートに具体的なことを書くイメージがあります。31,32 ページとそれに対応する 5 ページの基本方針を見比べると、＜豊かな心＞に書いてある細かい様々な教育が、道徳やキャリア教育のところにあまり書いていないです。基本方針のところを大まかに書いて、具体的にはそれぞれのページに書いていただいた方がいいと思います。6 ページの＜学校施設の充実＞が 53,54 ページに反映されているのかなと思うと、教育環境の質的向上を図るのが、教育内容の充実、松阪市のめざす教育の実現のために、こういう施設の整備をしますよみたいな感じに、先ほど委員に言っていただいたような気がします。教育大

綱とこの施策シートとの整合性がきちんととれているか確認する必要があります。

二次元コードが発展の役割があるのか、足りない部分を補うのかそれぞれのページによって違います。教育ビジョンは数年間同じものを使用するので、リンク先が切れないようにする必要があります。

事務局

3 ページから 7 ページの教育大綱の部分は変更できないので、それをいかに反映させていくかが重要になってくると思いました。

(4)あいさつ(各委員から)

3 その他

(1)今後のスケジュールについて

(事務局から説明)

(2)あいさつ(教育長)

事務局

本日も長時間、また第 6 回までの間、教育ビジョンの方を検討いただきましてありがとうございました。これをもちまして松阪市教育ビジョン検討委員会すべての議論を終了とさせていただきます、ありがとうございました。

(以上で終了した。午後 4 時 25 分終了)